

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

宮城に暮らすネパール人の相互扶助と地域貢献



シュレスタ ハリ ゴパールさん
ネパール連邦民主共和国出身 仙台市在住
海外在住ネパール人協会日本支部(仙台) 理事長
株式会社H&S 代表取締役
インド・ネパール料理KUMARI 代表



海外在住ネパール人協会日本支部(仙台)の献血活動

— 来日のきっかけと来日後の勉強のことなど教えてください。

ネパールの若者の多くがそうであるように、私も独身のうちに海外へ出てみたいと考えていました。日本を選んだのは、子どもの頃、農業支援でネパールに来ていた日本人が身近にいて、日本に親近感を持っていたことが大きかったと思います。仙台の日本語学校への留学許可が下り、2010年来日しました。ネパールでも日本語を勉強していましたが、ほんの少しだったので、日本語学校の2年間はしっかり勉強しました。ネパール語のほうが日本語より発音の種類が多いので、会話することはそんなに大変ではありませんでしたが、単語や漢字には苦労しました。覚えにくい漢字は、紙に書いて家の中の目につくところに貼り、アルバイト先で新しい言葉を教えてもらったときは、翌日や数日後にその言葉を使って会話し、繰り返して覚るようにしていました。

— 2016年の終わりに仙台で起業したそうですが、以前から計画していたのですか。

いえ、計画していたわけではありません。周りのネパール人は、日本語学校を卒業すると、専門学校進学や就職のため県外へ行く人がほとんどでした。仙台や宮城県内で就職先を見つけることは難しかったからです。私も迷いましたが、仙台市内の専門学校へ進み、そのまま市内で給食やお弁当を作る会社に就職しました。海外へ事業展開するための市場リサーチなどに関わりながら、いずれネパールへ帰るつもりでした。それが2年半のあいだに、ネパール人留学生が仙台で増えてスパイスなどの需要が高まったことや、ここで本来のインド・ネパール料理を伝えたいことから、最初に雑貨店、約半年後にインド・ネパール料理店を開きました。会社設立では、以前の勤め先の社長や友人にたくさん助けてもらい、信頼関係を持つことは大切だと実感しました。雑貨店を開いたお陰で、留学生の相談に乗ったり、通訳をしたりと、他の人を助けることができ嬉しかったです。そして、先輩として仙台で働き生活するネパール人の姿を後輩たちに示すことができ、誇らしいです。でも、コロナ禍で入国する留学生が減り、雑貨店の販売は落ち込み、料理店のほうも休業などで大変でした。国や市からの支援金には感謝しています。母国には同じような支援はありませんから。ただ、規制のない今(2021年12月)のほうが厳しく、以前の売り上げまで4割くらい足りません。早くお客さんに戻ってきてもらいたいと願っています。

— 現在、海外在住ネパール人協会日本支部(仙台)(以下、NRNA仙台)の理事長をされているそうですね。

NRNAは、ネパール政府公認の海外に住むネパール人のための非営利団体です。世界中に住んでいるネパール人のネットワークを構築することや、在外のネパール人の知恵と技術をネパールの発展に役立てるなどの役割があります。2017年に初めて仙台にも設立されたのですが、2年ごとに理事が全員交代するこの組織において次の人員が不在となってしまう、2019～2021年は存在していませんでした。そこで、2021年～2023年の2年間は私が理事長を務め、再始動することになりました。宮城県に住む1,700人余りのネパール人は種々のコミュニティに繋がっていますが、その中でNRNA仙台はネパールを代表する立場であると考えています。NRNA仙台には私を含め運営にかかわる15人のメンバーがおり、各々仕事を持っていますが、月に1回会議をしています。私たちはここで暮らすネパール人、そして日本人のために、何ができるかを常に考えて様々な活動をしています。

— NRNA仙台では、どんな活動をしていますか。

ネパール人の互助的な活動として、昨年、仙台でネパール人が亡くなった時、在日ネパール大使館から全権を委ねられて、葬儀や行政手続き、また母国にいる家族への財産引き渡しなど行いました。地域貢献活動では、コロナ禍で献血不足が続いていた2021年8月に献血をしました。ネパールでは交通事故が多いせいか、献血は一般的なことなのです。宮城県赤十字血液センターに相談したところ、献血バスと特設会場を用意してもらうためには40人以上の提供者が必要とのことで、Facebookを通じて呼びかけた結果、60人ほど仲間が集まりました。皆が安心して実施できるように、準備期間に3か月ほど費やしました。献血は私たちネパール人の感謝を伝えるとても良い方法だと思っています。そして、この献血を1回限りとせず、NRNA仙台の年1～2回の定期活動にしようとしています。また、NRNA仙台はネパール人留学生向けの奨学金制度を作ることを検討しています。留学生は、就業許可されている週28時間で得るお金だけでは、生活費と学費をまかなうのが難しいからです。他にも、県内でネパール人を雇用している企業を訪問して、感謝を伝えることなど計画しています。

「みやぎ外国人相談センター」から

みやぎ外国人相談センターに寄せられた相談事例を紹介します。

Q

現在高校生の子どもが大学進学を予定しています。外国籍でも利用できる奨学金はありますか。

A

日本学生支援機構(JASSO)の奨学金は、給付型・貸与型の奨学金どちらも下記の条件を満たせば外国籍であっても申し込みが可能です。この他、独自の奨学金制度がある大学等もあります。在学時の成績や家庭の収入などの条件があるものや、申し込み・手続きの時期が決まっているものもありますので、高校の先生を通じて相談してみてください。

◆日本学生支援機構(JASSO)

《外国籍の場合の申し込み条件》

- 在留資格が法定特別永住者、永住者、定住者(将来永住する意思のある者のみ)、日本人の配偶者、永住者の配偶者。これ以外の在留資格「家族滞在」、「留学」等は申し込みすることはできません。
- この他、高校の成績や家庭の収入などに条件があります。

日本学生支援機構HP : <https://www.jasso.go.jp/index.html>

子どもの教育に関することも下記の言語で相談することができます。
お気軽にお問い合わせ下さい。

みやぎ外国人相談センター TEL 022-275-9990

●月曜日～金曜日 9:00～17:00

●対応言語：

中国語、韓国語、英語、タガログ語、ベトナム語、ネパール語、

インドネシア語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、タイ語、ヒンディー語、日本語

日本語講座だより フォローアップ講座・オンライン講座について



今年度のMIA日本語講座は、新型コロナウイルス感染症の流行により、当初4月開講の予定が遅れ、第1期は6月にやっと始まりました。また夏休み明けの8月末には緊急事態宣言のため2週間の中断となり、閉講は10月末でした。その後の見通しの判断も難しかったことから、第2期の開講は見送られました。集中的な学習機会を確保できず、学習内容の理解と定着が難しかったことから、11月より初級1・2クラスには計12回、中級クラスには計4回のフォローアップ講座を実施しました。また同時に初級1・2クラス受講者対象にオンライン講座も実施しました。オンライン講座について講師の田崎康子さんは、「『いろいろ生活の日本語*』のテキストは、イラストが豊富で理解しやすく、話題が作りやすいです」とのこと。「ただ、オンラインは対面授業とはリズム感やテンポが異なるので、もどかしさを感じます。でも、これまでに育んできた関係性がとても役立っていて、受講生同士が発言の機会を譲ったり、待ったりと自然にやりとりができていて、オンラインの弱みは最小化されています」と、話してくださいました。オンラインは学習者が各所からアクセスできるため、移動時間や家族の都合などあまり心配せずに参加できるというメリットがあります。実際、自宅からのアクセス中にご家族も登場し、話題が一層盛り上がることもありました。



オンライン講座のようす

*『いろいろ生活の日本語』とは、日本で生活や仕事をする上で必要となる基礎的日本語を学べる国際交流基金作成の教材で、ウェブサイトから自由にダウンロードできます。



市町村職員を対象とした「やさしい日本語」研修

11月16日(火)に自治会館において「市町村職員のためのやさしい日本語研修」が開催されました。この研修は、「やさしい日本語」でのコミュニケーションのとり方について理解を深めてもらうことで、各種窓口でより円滑な外国人対応につなげていただくことを目的として開催したものです。MIAが県からの委託を受けて取り組んでいる「多文化共生のためのコミュニケーション支援業務」の一環として行われました。

前半は、話し言葉の「やさしい日本語」をテーマとして、「やさしい日本語」が必要とされる社会的な背景を確認し、作り方の基本的なルールや言い換え練習を行いました。

後半は、書き言葉に焦点をあて、施設利用の案内文を「やさしい日本語」で書き換えるグループワークに取り組みました。

参加した方からは、「工夫を重ねることで相手に伝わるようになることを実感しました」「早速『やさしい日本語』を使いたいと思います」「他の職員にも学んでほしい」といった感想が寄せられました。

MIAでは、次年度以降も県内各地で「やさしい日本語」の普及に取り組んで行く予定です。



グループワークの成果を共有

多文化なトピック

外国につながりをもつ子どもの応援ネットワーク「おむすび」

宮城県内の小中学校や学校外で外国につながりをもつ子どもの支援に関わっている人々が集まり、実践例や情報を共有し、支援者同士をむすぶ場として「おむすび」が、昨年11月に立ち上がりました。

月に1回、1時間ほどオンライン形式の座談会を開いています。小中学校の先生、外国籍児童生徒の支援団体メンバー、大学関係者など60名前後の参加があります。それぞれの現場で孤軍奮闘している学校の先生や民間団体の方などがこうした場できつながり、今後の支援の充実や相互連携に発展していくことを期待しています。次の開催予定等は、MIAのHPにてご確認ください。



大崎市におけるMIA外国人支援通訳サポーターの活用

大崎市では、市役所の各窓口や市の施設における在住外国人対応のために、今年度からMIA外国人支援通訳サポーターを活用することとし、予算化しています。

先日、大崎市民病院を受診する外国人への対応のために初めてこの枠組みで通訳を行いました。今年度は感染対策のために対面での通訳は休止していますので、この日もオンラインによる遠隔通訳でした。担当された医師や事務スタッフからは「非常に助かった」との感想をいただきました。

自治体の中にはこうした予算が計上されていないがゆえに、現場では必要とされている通訳が手配できないということもあります。子育て、教育、保健医療、福祉、税務などことばのお手伝いを必要とする現場は多様ですし、今後在住外国人のさらなる増加とともに行政における通訳ニーズもまた高まっていくことが考えられます。

ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

「日本語の大疑問 眠れなくなるほど面白い ことばの世界」(幻冬舎新書)

国立国語研究所編 発行：幻冬舎

私たちが何気なく使っている日本語。改めて問われると、わからないことがたくさんあります。

本書は、日本語についてのさまざまな疑問と、それに対する簡潔でわかりやすい回答で構成されています。

- ・ 若者ことばの「やばみ」や「うれしみ」の「み」はどこから来ているものですか。
 - ・ 日本語は難しい言語ですか。
 - ・ 日本語を学ぶ人にとって発音しにくい音はどんなものですか。
 - ・ 「これ」「それ」「あれ」は、どんなふうに使分けられていますか。
 - ・ 外来語をカタカナで書くのは、いつからどのように始まったのですか。などなど
- 日本語学・言語学・日本語教育の専門家が、41種類もの疑問に答えています。日本語にますます興味が湧いてくる1冊です。



塩竈市で中学生とベトナム人技能実習生が交流を深めました

12月5日、塩竈市役所において、中学生とベトナム人技能実習生との交流会が開催されました。

この交流会は、塩竈市が市政80周年記念事業として実施している「塩竈市中学生国際交流研修事業」の一環として行われたもので、市内在住の中学2年生5人と極洋食品株式会社に勤める技能実習生5人が参加しました。

MIAから外国人技能実習制度について、塩釜国際交流協会から日本語学習支援活動などの取り組みについて説明があった後、極洋食品から技能実習生の仕事の内容について紹介がありました。食卓でおなじみの各種食品を作る仕事に従事していること、機械化が進む工場でも人の手による作業は不可欠で、技能実習生が貴重な戦力になっていること、といった話を中学生は興味深く聞いていました。

技能実習生からはクイズ形式でベトナムの紹介がされたほか、ベトナム語の歌の披露もありました。

後半は中学生にもベトナムの民族衣装のアオザイを着用してもらい、技能実習生と輪になって着席。ベトナム語の挨拶表現を教わったり、ベトナムのことや中学校生活などについて紹介し合ったりなど、更に交流を深めました。

塩竈市には245人の外国人技能実習生が暮らしていますが(2021年11月末現在)、職場以外で市民と接する機会は限られています。今回の交流会は、中学生にとって地域の多文化化について理解を深める大変貴重な機会となったことでしょう。



みやぎの国際活動団体

東松島国際チーム(HIT) 会長 櫻谷ひとみ さん

私たち東松島国際チーム(HIT)は、主に東松島市および石巻圏域在住の外国人の方々に、安心して日常生活を送っていただくことを目的として、2019年6月に設立した団体です。

私たちは、圏域在住の外国人を対象とした日本語学習の支援、生活に関する困りごとへの対応、東松島市を知ってもらうための活動を行い、地域との繋がりを高め外国人の方々の居場所づくりを力を入れています。日本語教室は、現在月に2回ほど開いていますが、学習者や支援者双方にとって大切な機会となっています。また、国際理解イベントにも取り組んでいます。

昨年は県内在住の韓国やベトナム出身の講師を招いて「ひがしまつしま異文化交流会」を蔵しっくパークで開催しました。ことば、食文化や名所などについての紹介の後、来日後の生活について、日本語を習得するまで周囲に馴染むのが大変だったこと、医療・子育てや災害の場面で言葉だけでなく文化の違いに苦労したことなどを話していただきました。講師からも積極的に問いかけてもらい、韓国語やベトナム語の挨拶をみんなで一緒に練習したり、質問タイムなどもあり、一方通行ではなくお互いに理解を深める時間となりました。これからも、地域で支え合うことができるまちを目指し、活動して参ります!



日本語教室の様子

日本語教室とボランティア会員についての問い合わせ先 hit_nihongo0621@yahoo.co.jp

サポーターの声

張 倩鈺さん MIA国際理解教育支援事業講師 (東北大学留学生)

来日前、中国の高校で教師をしていました。今は学生なので日本の中高生に接する機会がなくて残念に思っていたのですが、大学の寮でMIAの外国人講師の活動を知り講師登録をしました。県内の子供たちとオンラインで交流することができて、参加して良かったと思っています。

プログラムが始まるまでは、最近の日中関係の影響で子供たちが中国文化に抵抗を感じないか心配でした。でも始めてみると、子どもたちはとても純粋で明るく、異文化に対して興味津々に話を聞いてくれました。また、私の問いかけに答えてくれるかどうか不安もあったのですが、子どもたちはとても活発で、積極的に答えてくれてとても嬉しかったです。

難しいと感じたことは子どもたちからの質問に答えることです。「一番好きな日本語は何か」、「日本に来て困ったことはあったか」など聞かれました。少し緊張していたことと、今まで考えたことがない質問だったので、その場で答えるのが難しかったです。

今後は中国の文化紹介の時に、クイズをもっと取り入れたいです。中国について誤解されやすいことなど、子どもたちに少し考えてみてもらいたいです。文化やマナー等の違いを表面的に見るのではなく、その理由についても考える習慣があれば、中国だけでなくすべての異文化に対して理解が深まるのではないかと思います。



オンラインで交流中の張倩鈺さん

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただく個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙「みやぎの国際情報誌 倶楽部MIA」の定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
- ◎宮交観光サービス(株)
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
◎本協会申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.119

編集・発行
公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通宮宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

